

## 農家民宿・民泊のアンケート調査結果

北海道農政部農村振興局農村設計課

### 1 調査目的

道では、農村の活性化の重要な取組としてグリーン・ツーリズムを推進しています。

この度、農村における滞在拠点となる農家民宿・民泊の取組を推進するため、現状や課題についてアンケート調査を行いました。

### 2 調査対象など

調査対象：北海道内の農家民宿・民泊 968 件

調査方法：各(総合)振興局から市町村を通じて、受入を行う団体へアンケート用紙を配布し回収する。

調査期間：平成 28 年 6 月中旬～7 月下旬

回収結果：319 件（回収率：33%）

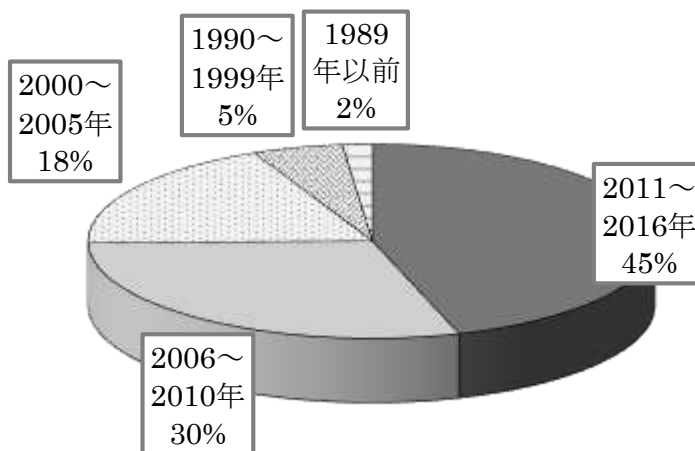
### 3 結果概要

- ・回答者の 94.6%が修学旅行生等の小中高校生の受入を行っています。また、回答者の 10.2%が一般旅行者の受入を行っています。
- ・受入を担う人の年齢は、50 代以上が 75.5%を占めています。
- ・農家民宿・民泊を始めた理由として、回答者の 75.5%が「農業や農村の良さや価値を伝えるため」と回答しています。
- ・農家民宿・民泊に取り組んだことによって自身が感じた変化として、回答者の 47.1%が「都市農村交流の大切さを知った」、41.2%が「農業・農村の良さを再認識した」と回答しています。
- ・取組の満足度については、回答者の 85.4%が「満足」「どちらかといえば満足」と回答しています。
- ・満足と思う理由として、回答者の 66.4%が「子どもたちの教育に貢献できる」と回答しています。
- ・不満と思う理由として、回答者の 56.1%が「負担感がある」、41.5%が「地域内にグリーン・ツーリズムに取り組む人が少ない」と回答しています。
- ・今後の取組意向について、回答者の 65.3%が「続けたい」、28.9%が「わからない」と回答しています。
- ・一般旅行者の受入について、回答者の 36%が「増やしたい」「条件次第では増やしたい」と回答している一方、41.8%は「増やしたくない」、22.2%が「わからない」と回答しています。

#### 4 調査結果

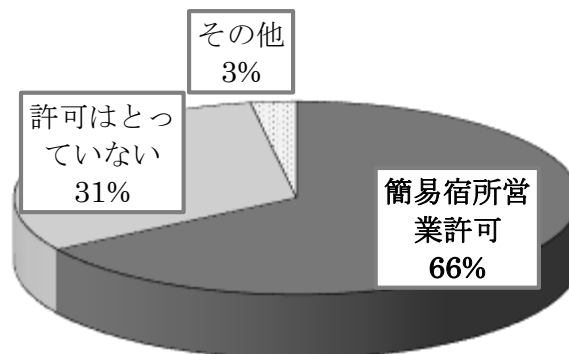
Q1 農家民宿・民泊をはじめたのはいつですか？

	回答数	比率
2011～2016年	132	45.1
2006～2010年	87	29.7
2000～2005年	54	18.4
1990～1999年	15	5.1
1989年以前	5	1.7
計	293	100.0



Q2 旅館業法の許可区分は次のどれですか？

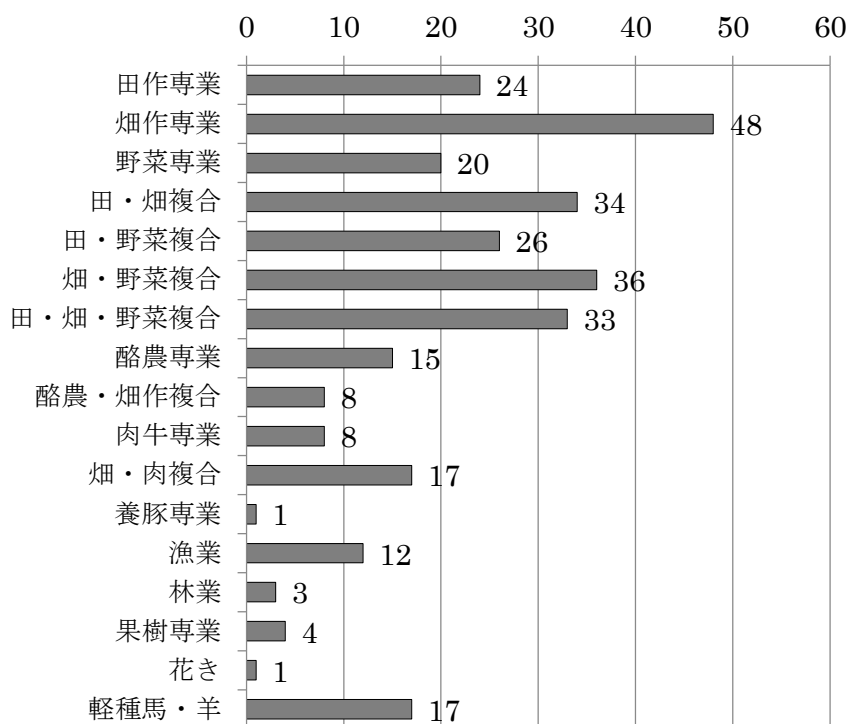
	回答数	比率
簡易宿所営業許可	202	66.0
許可はとっていない	96	31.4
その他	8	2.6
計	306	100.0



■その他の主な内容  
取得予定 など

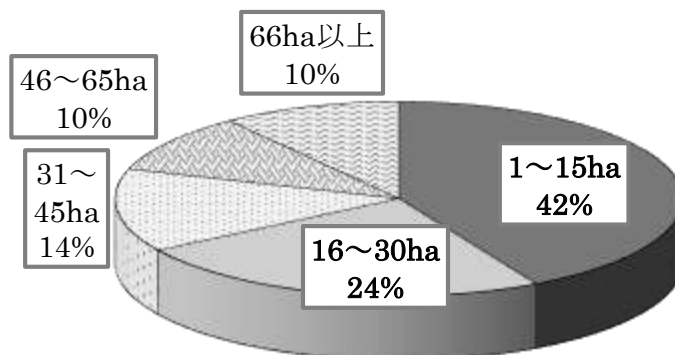
Q3 主たる農業・漁業類型はなんですか？

	回答数	比率
田作専業	24	7.8
畑作専業	48	15.6
野菜専業	20	6.5
田・畑複合	34	11.1
田・野菜複合	26	8.5
畑・野菜複合	36	11.7
田・畑・野菜複合	33	10.7
酪農専業	15	4.9
酪農・畑作複合	8	2.6
肉牛専業	8	2.6
畑・肉複合	17	5.5
養豚専業	1	0.3
漁業	12	3.9
林業	3	1.0
果樹専業	4	1.3
花き	1	0.3
軽種馬・羊	17	5.5
計	307	100.0



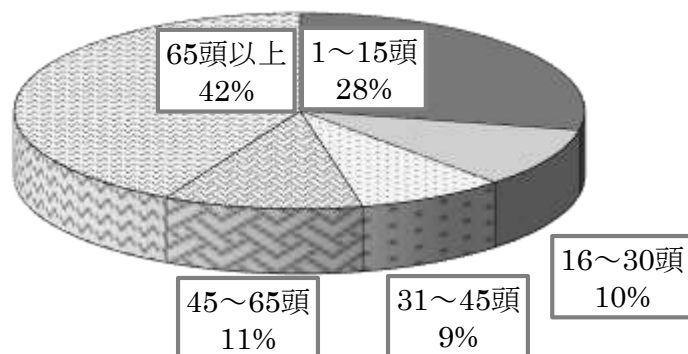
Q4-1 経営面積・規模はどのくらいですか？ (ha)

	回答数	比率
1~15ha	115	42.0
16~30ha	66	24.1
31~45ha	38	13.9
46~65ha	27	9.9
66ha以上	28	10.2
計	274	100.0



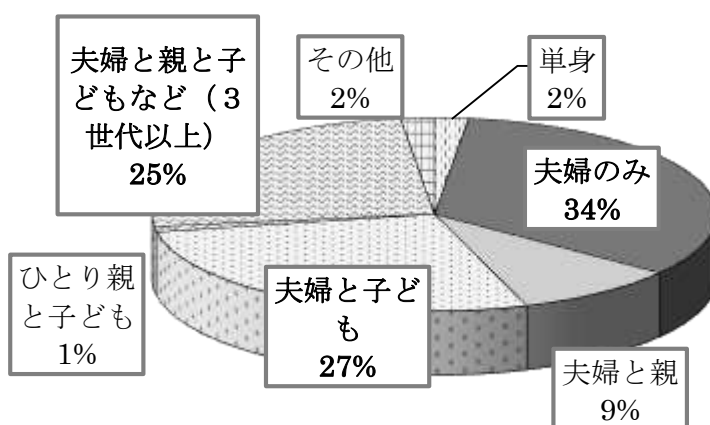
Q4-2 経営面積・規模はどのくらいですか？（頭数）

	回答数	比率
1～15 頭	20	28.2
16～30 頭	7	9.9
31～45 頭	6	8.5
45～65 頭	8	11.3
65 頭以上	30	42.3
計	71	100.0



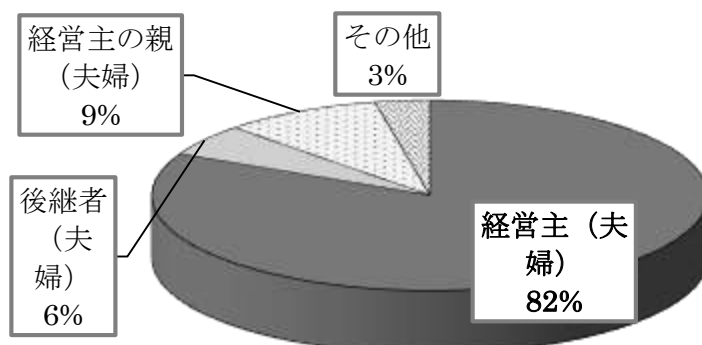
Q5 あなたの家族構成についておたずねします。

	回答数	比率
単身	6	1.9
夫婦のみ	104	33.4
夫婦と親	29	9.3
夫婦と子ども	85	27.3
ひとり親と子ども	3	1.0
夫婦と親と子どもなど （3世代以上）	78	25.1
その他	6	1.9
計	311	100.0



Q6 主として受入を担う人は誰ですか？

	回答数	比率
経営主（夫婦）	258	82.2
後継者（夫婦）	17	5.4
経営主の親（夫婦）	29	9.2
その他	10	3.2
計	314	100.0

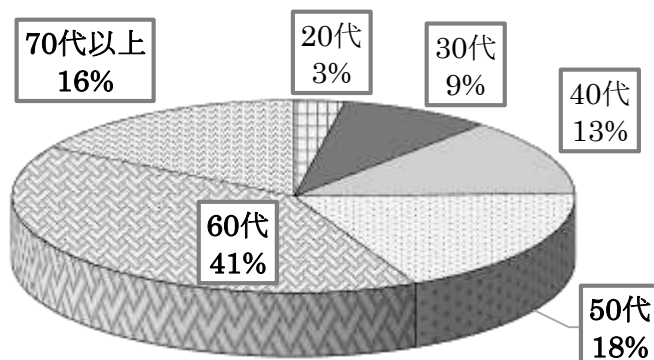


■その他の主な内容

経営主又は経営主の妻（どちらか一人）／家族全員／作業は後継者・食事は経営者／ボランティア

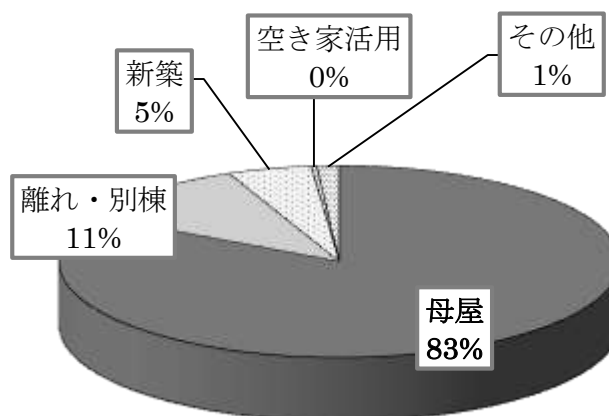
Q7 主として受入を担う方の年齢をおたずねします。

	回答数	比率
20代	9	2.9
30代	27	8.7
40代	40	12.9
50代	57	18.4
60代	126	40.6
70代以上	51	16.5
計	310	100.0



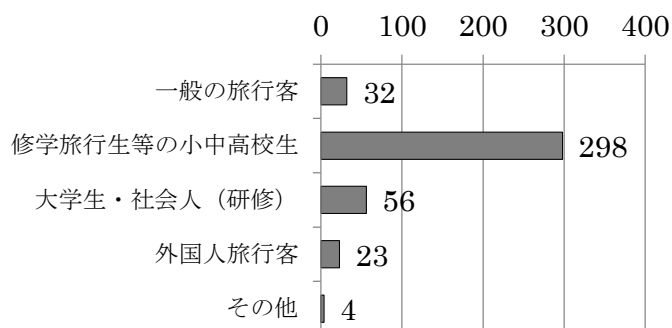
Q8 農家民宿・民泊の建物の利用形態について

	回答数	比率
母屋	257	82.9
離れ・別棟	33	10.6
新築	15	4.8
空き家活用	1	0.3
その他	4	1.3
計	310	100.0



Q9 あなたの農家民宿・民泊に宿泊しに来る人はどんな人ですか？（複数回答）

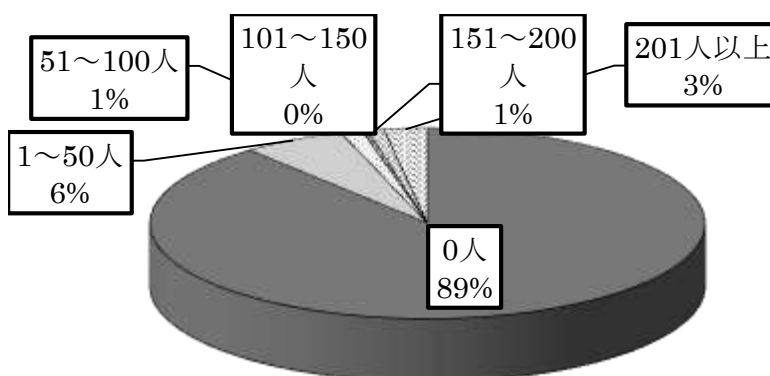
回答者=315	回答数	比率
一般の旅行者	32	10.2
修学旅行者等の小中高校生	298	94.6
大学生・社会人（研修）	56	17.8
外国人旅行者	23	7.3
その他	4	1.3
計	413	-



■その他の主な内容  
 アルバイトの大学生／専門学校生／地元の知人（交流のため）

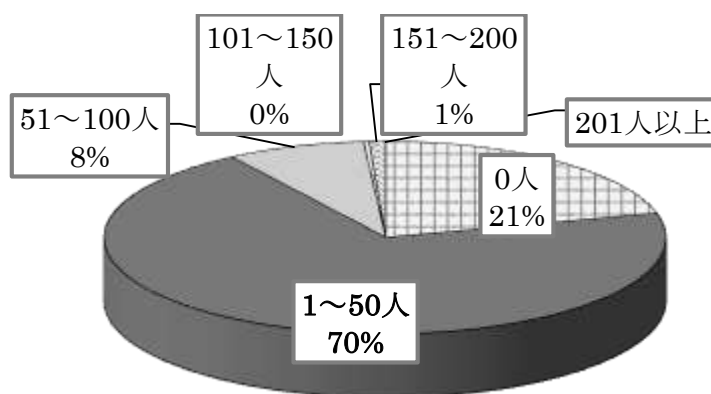
Q10-1 昨年一年間のおおよその宿泊客をご記入ください。(一般の旅行者)

	回答数	比率
0人	281	88.9
1~50人	19	6.0
51~100人	4	1.3
101~150人	1	0.3
151~200人	3	0.9
201人以上	8	2.5
計	316	100.0



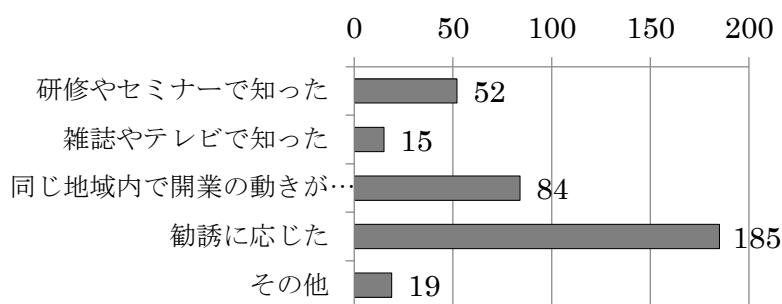
Q10-2 昨年一年間のおおよその宿泊客をご記入ください。(団体客)

	回答数	比率
0人	66	21.0
1~50人	220	69.8
51~100人	25	7.9
101~150人	1	0.3
151~200人	3	1.0
201人以上	0	0.0
計	315	100.0



Q11-1 あなたは開業前に農家民宿という取組をどのようにして知りましたか？(複数回答)

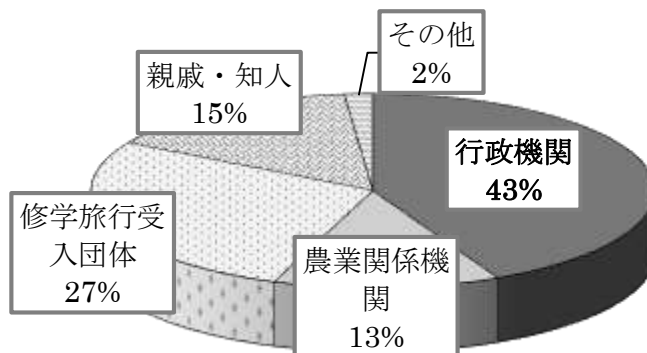
回答者=310	回答数	比率
研修やセミナーで知った	52	16.8
雑誌やテレビで知った	15	4.8
同じ地域内で開業の動きがあった	84	27.1
勧誘に応じた	185	59.7
その他	19	6.1
計	355	-



■その他の主な内容  
 独自に調査/インターネット/海外視察/知人の事業に賛同して

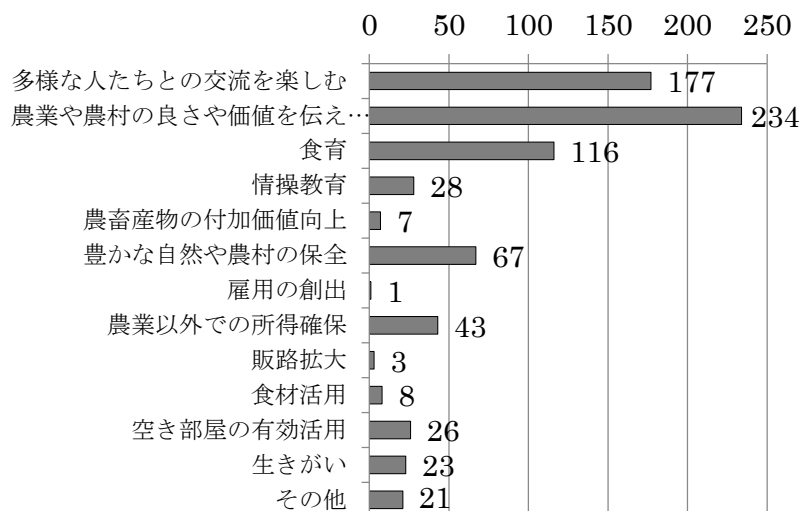
Q11-2 (問 11-1 で「勧誘に応じた」を選んだ方) 誰から勧誘されましたか？

	回答数	比率
行政機関	79	42.7
農業関係機関	24	13.0
修学旅行受入団体	51	27.6
親戚・知人	28	15.1
その他	3	1.6
計	185	100.0



Q12 なぜ農家民宿・民泊に取り組もうと思いましたか？ (複数回答)

回答者=310	回答数	比率
多様な人たちとの交流を楽しむ	177	57.1
農業や農村の良さや価値を伝えるため	234	75.5
食育	116	37.4
情操教育	28	9.0
農畜産物の付加価値向上	7	2.3
豊かな自然や農村の保全	67	21.6
雇用の創出	1	0.3
農業以外での所得確保	43	13.9
販路拡大	3	1.0
食材活用	8	2.6
空き部屋の有効活用	26	8.4
生きがい	23	7.4
その他	21	6.8
計	754	-

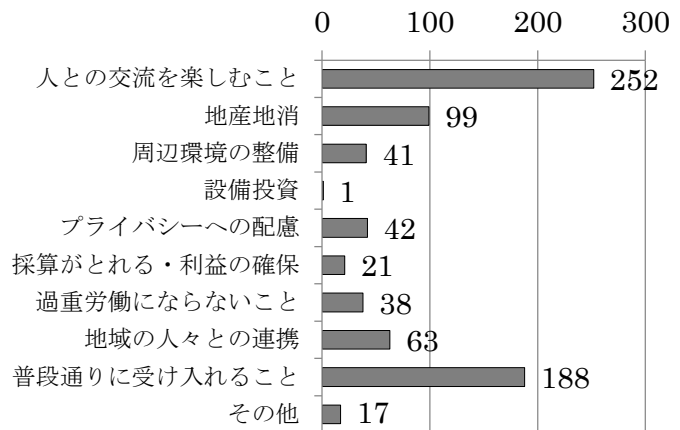


■その他の主な内容

勧誘を受けたため／ビジネス創出／  
生活のため／地域のファンを増やすため／  
青少年教育

Q13 取組をする上で心がけていることは何ですか？（複数回答）

回答者=310	回答数	比率
人との交流を楽しむこと	252	81.3
地産地消	99	31.9
周辺環境の整備	41	13.2
設備投資	1	0.3
プライバシーへの配慮	42	13.5
採算がとれる・利益の確保	21	6.8
過重労働にならないこと	38	12.3
地域の人々との連携	63	20.3
普段通りに受け入れること	188	60.6
その他	17	5.5
計	762	—

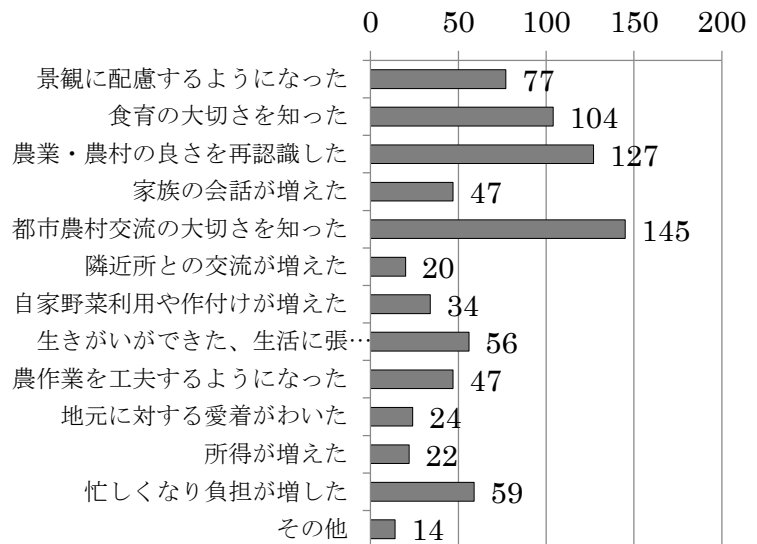


■その他の主な内容

子どもたちにとって良い思い出となること／  
 会話と意見交換／農業について伝えること／  
 自然とのふれあい

Q14 農家民宿・民泊に取り組んだことによって、あなた自身が感じた変化はありますか？（複数回答）

回答者=308	回答数	比率
景観に配慮するようになった	77	25.0
食育の大切さを知った	104	33.8
農業・農村の良さを再認識した	127	41.2
家族の会話が増えた	47	15.3
都市農村交流の大切さを知った	145	47.1
隣近所との交流が増えた	20	6.5
自家野菜利用や作付けが増えた	34	11.0
生きがいがあった、生活に張り が出た	56	18.2
農作業を工夫するようになった	47	15.3
地元に対する愛着がわいた	24	7.8
所得が増えた	22	7.1
忙しくなり負担が増した	59	19.2
その他	14	4.5
計	776	—



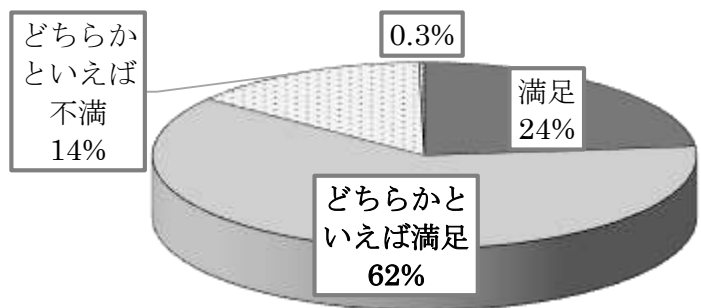
■その他の主な内容

教育の大切さ・食事の大切さを知った／  
 各地域の文化・食生活等の違いが分かり勉強に  
 なる／来てくれた子ども達の出身地のニュース  
 が気になるようになった



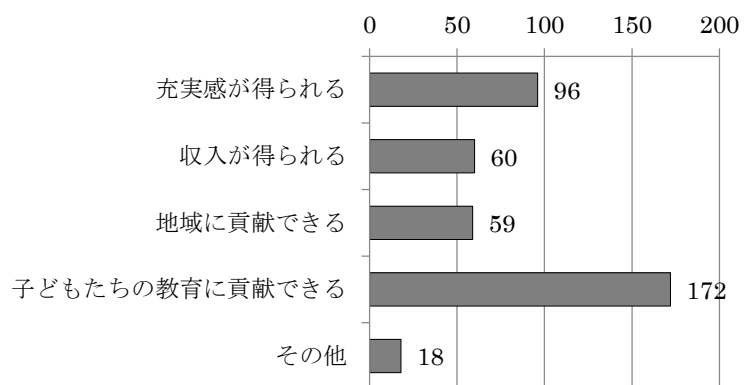
Q15-1 あなたは今の農家民宿・民泊の取組について満足していますか？

	回答数	比率
満足	72	23.5
どちらかといえば満足	190	<b>61.9</b>
どちらかといえば不満	44	14.3
不満	1	0.3
計	307	100.0



Q15-2 (問 15-1 で「満足」「どちらかといえば満足」を選んだ方) 満足と思う理由は何ですか？  
(複数回答)

回答者=259	回答数	比率
充実感が得られる	96	37.1
収入が得られる	60	23.2
地域に貢献できる	59	22.8
子どもたちの教育に貢献できる	172	<b>66.4</b>
その他	18	6.9
計	405	—

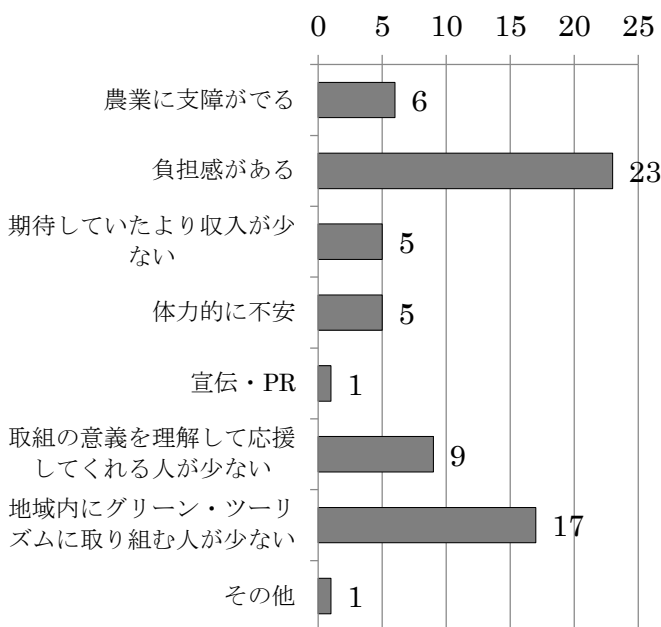


■その他の主な内容

受入が楽しい・思い出に残る／孫のような世代と交流することで自分自身もパワーをもらえる気がする／農業を直接伝えられる／「いただきます」の意味、命について伝えられる／自分たちの身の丈の生活が維持できる

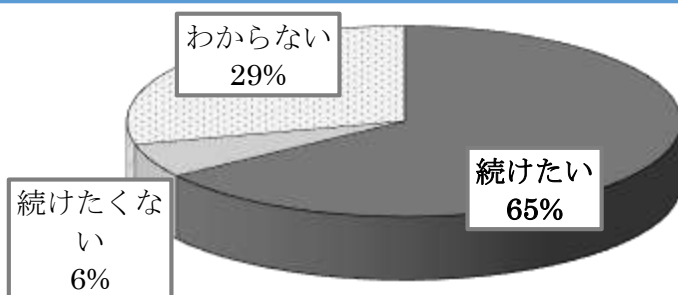
Q15-3 (問 15-1 で「不満」「どちらかといえば不満」を選んだ方) 不満と思う理由は何ですか？  
(複数回答)

回答者=41	回答数	比率
農業に支障がでる	6	14.6
負担感がある	23	56.1
期待していたより収入が少ない	5	12.2
体力的に不安	5	12.2
宣伝・PR	1	2.4
取組の意義を理解して応援してくれる人が少ない	9	22.0
地域内にグリーン・ツーリズムに取り組む人が少ない	17	41.5
その他	1	2.4
計	67	—



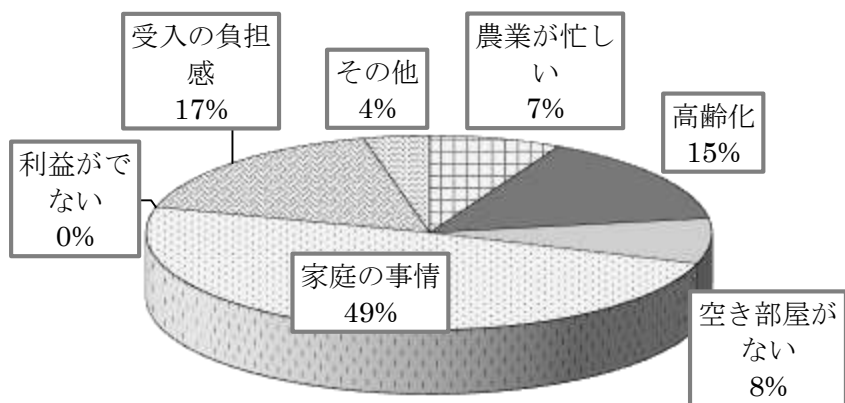
Q16 今後、農家民宿の取組を続けていきたいと思いませんか？

	回答数	比率
続けたい	203	65.3
続けたくない	18	5.8
わからない	90	28.9
計	311	100.0



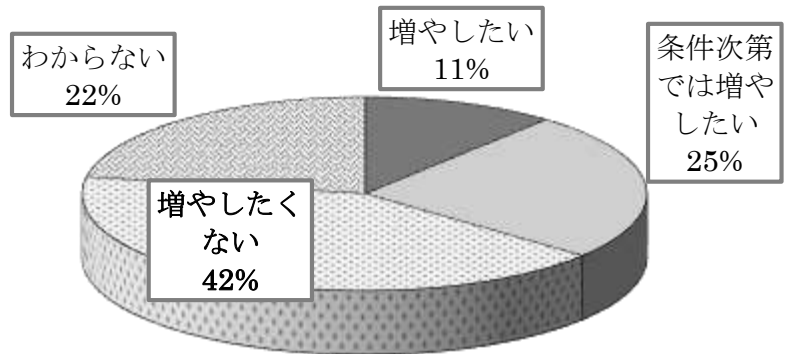
Q17 現在受入を休止している方におたずねします。休止の理由は何ですか？

	回答数	比率
農業が忙しい	4	7.5
高齢化	8	15.1
空き部屋がない	4	7.5
家庭の事情	26	49.1
利益がでない	0	0.0
受入の負担感	9	17.0
その他	2	3.8
計	53	100.0



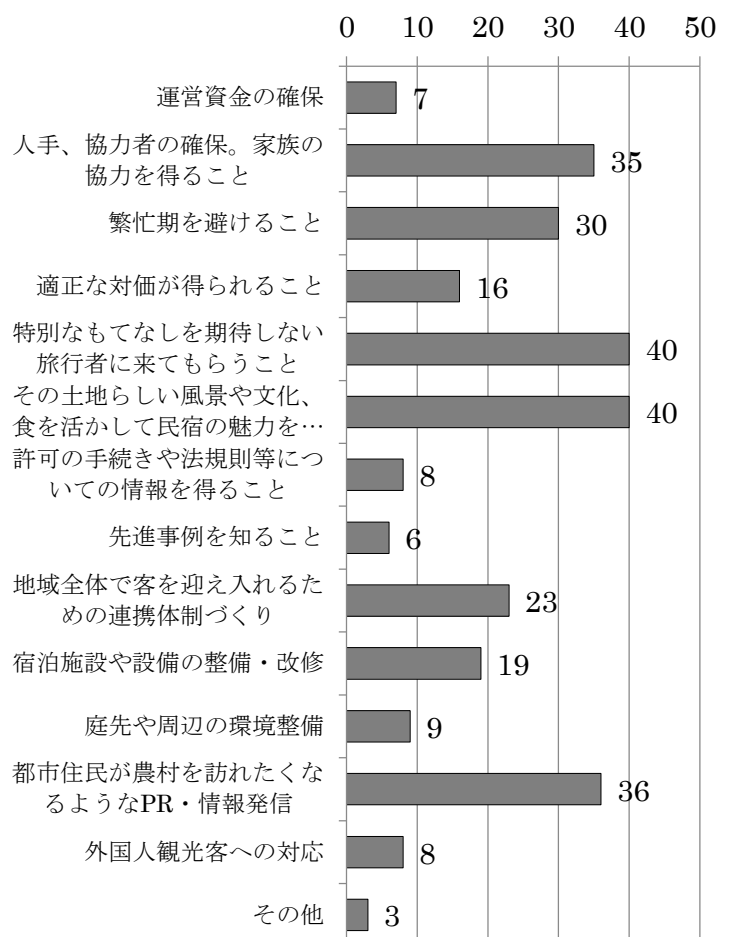
Q18-1 今後、一般の旅行客の受入を増やしていきたいと思いませんか？

	回答数	比率
増やしたい	33	11.1
条件次第では増やしたい	74	24.9
増やしたくない	124	41.8
わからない	66	22.2
計	297	100.0



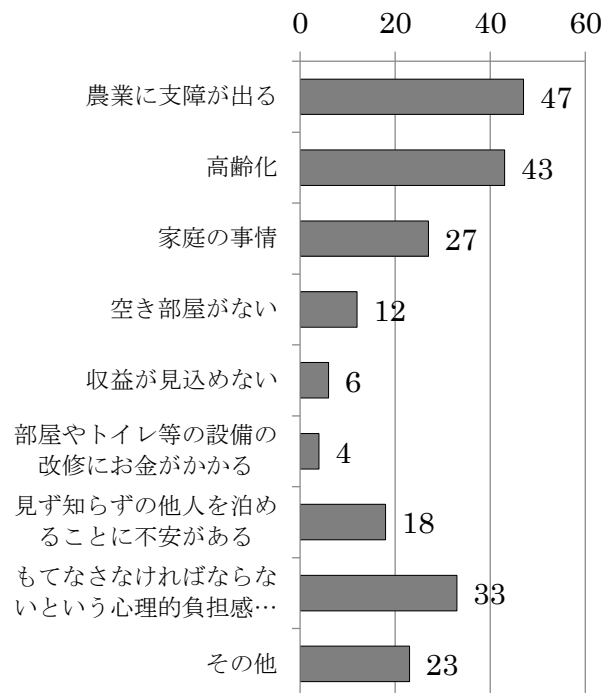
Q18-2 (問 18-1 で「増やしたい」「条件次第では増やしたい」を選んだ方) 受入を増やすためにどんなことが必要だと思いますか？(複数回答)

回答者=107	回答数	比率
運営資金の確保	7	6.5
人手、協力者の確保。家族の協力を得ること	35	32.7
繁忙期を避けること	30	28.0
適正な対価が得られること	16	15.0
特別なもてなしを期待しない旅行者に来てもらうこと	40	37.4
その土地らしい風景や文化、食を活かして民宿の魅力を高めること	40	37.4
許可の手続きや法規則等についての情報を得ること	8	7.5
先進事例を知ること	6	5.6
地域全体で客を迎え入れるための連携体制づくり	23	21.5
宿泊施設や設備の整備・改修	19	17.8
庭先や周辺環境整備	9	8.4
都市住民が農村を訪れたくなるようなPR・情報発信	36	33.6
外国人観光客への対応	8	7.5
その他	3	2.8
計	280	—



Q18-3 (Q18-1で「増やしたくない」を選んだ方) 増やしたくない理由は何ですか？(複数回答)

回答者=119	回答数	比率
農業に支障が出る	47	39.5
高齢化	43	36.1
家庭の事情	27	22.7
空き部屋がない	12	10.1
収益が見込めない	6	5.0
部屋やトイレ等の設備の改修にお金がかかる	4	3.4
見ず知らずの他人を泊めることに不安がある	18	15.1
もてなさなければならぬという心理的負担感がある	33	27.7
その他	23	19.3
計	213	—

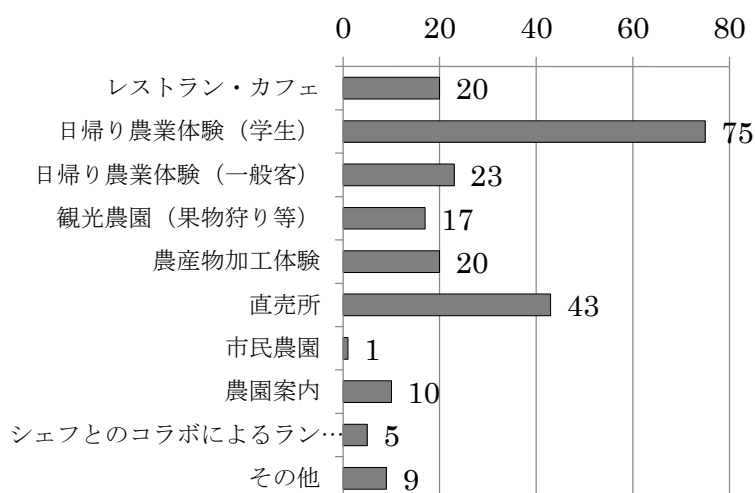


■その他の主な内容

農作業時期が合わない／学生のみ受入したいから／体調不安／飲酒の問題で不安がある／利用者の十分な満足に合うか疑問／以前受け入れた際、旅行者が夜遅くまで起きており、生活リズムの違いから対応が難しいと感じた／今まで通りの経営・接客。それに満足し再来してくる旅行者だけで充分だから

Q19-1 農家民宿・民泊の取組以外に行っている取組はありますか？（複数回答）

回答者=127	回答数	比率
レストラン・カフェ	20	15.7
日帰り農業体験（学生）	75	59.1
日帰り農業体験（一般客）	23	18.1
観光農園（果物狩り等）	17	13.4
農産物加工体験	20	15.7
直売所	43	33.9
市民農園	1	0.8
農園案内	10	7.9
シェフとのコラボによる ランチ提供	5	3.9
その他	9	7.1
計	223	—

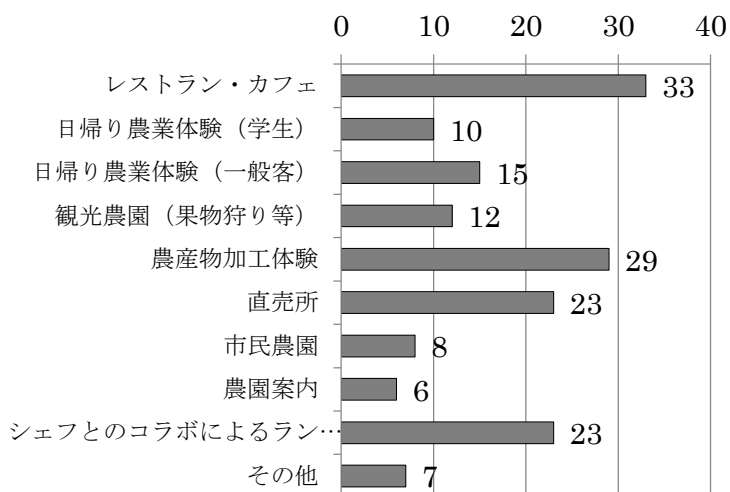


■その他の主な内容

そば打ちの指導／どぶろくの製造／乗馬／  
出前料理教室／企業研修の受入・企業連携

Q19-2 農家民宿・民泊の取組以外にやってみたい取組はありますか？（複数回答）

回答者=89	回答数	比率
レストラン・カフェ	33	19.9
日帰り農業体験（学生）	10	6.0
日帰り農業体験（一般客）	15	9.0
観光農園（果物狩り等）	12	7.2
農産物加工体験	29	17.5
直売所	23	13.9
市民農園	8	4.8
農園案内	6	3.6
シェフとのコラボによる ランチ提供	23	13.9
その他	7	4.2
計	166	—



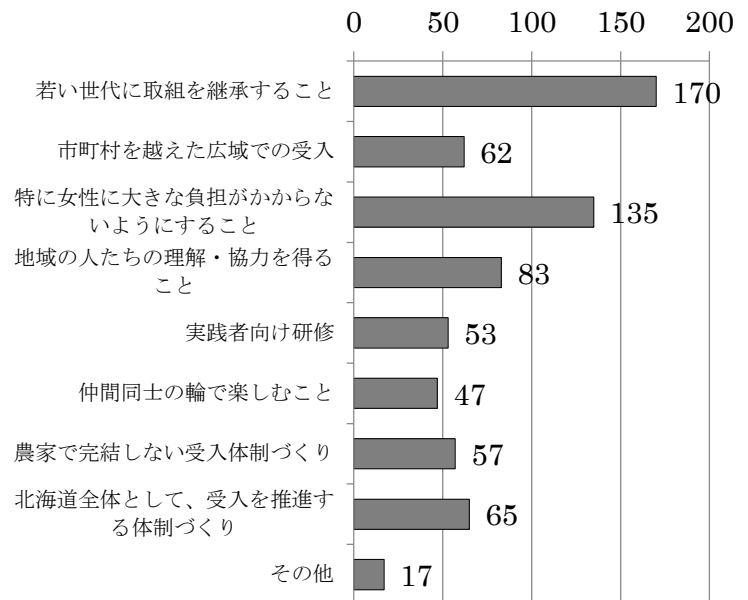
■その他の主な内容

オーベルジュ／子ども農園、子ども達が望む活動／地域（自分の所）の小学生の民泊／  
競走馬見学・乗馬体験と連携したツアー

Q20 現在、修学旅行生の受入に取り組んでいる方におたずねします。

地域で受入を続けていくために何が必要だと思いますか？（複数回答）

回答者=288	回答数	比率
若い世代に取組を継承すること	170	59.0
市町村を越えた広域での受入	62	21.5
特に女性に大きな負担がかからないようにすること	135	46.9
地域の人たちの理解・協力を得ること	83	28.8
実践者向け研修	53	18.4
仲間同士の輪で楽しむこと	47	16.3
農家で完結しない受入体制づくり	57	19.8
北海道全体として、受入を推進する体制づくり	65	22.6
その他	17	5.9
計	689	—



■その他の主な内容

行政・JAの理解／収入の一つとなる金額設定が必要／当たり前の生活をそのまま見せる、気張らない、その家の「お父さん、お母さん」でいること／負担を減らすこと／周知活動

Q21 ご意見・ご提案がありましたらご自由にお書きください。

○農家民宿・民泊に取り組む理由

- ・老夫婦になりつつある世代です。良き田舎の生活を若い世代に経験してもらい、都会では味わえない良さを実感してもらい、今後の食育につながればと思います。学生の受入をしています。
- ・農業者が見えない部分の再発見があることが楽しみで都市農村の交流など色々な取組が町の発展につながると思う。
- ・食料生産基地北海道の将来のため、全国の子供達に北海道の良さを理解してもらう良い機会であるので続けてほしい！
- ・6,7年に受け入れた学生が社会人となり、また訪れてきたりとリピーターが少しずつ出だしました。やはり、農家に来たからには楽しい思い出になるように、また、何年後かに会うことができるように旅行者との関係ができれば幸いです。
- ・農家は都市と農村の交流のため生産現場を見てもらい、農業に対する理解を得ることが第一。地域で取

り組むことが大事であり、農家の仕事は原料生産だけではない。農業体験により食への理解を深める効果がある。子ども達にきちんと説明することで変わる。小さな種から作物に育っていく過程を見ることで、子ども達の世界観が変わり、自分の将来に自信を持つことができる。こうしたことから、グリーン・ツーリズムの取組はもっと広げるべき。

- ・本格的に民泊受入を始め二年目、思うことは「農村での生活を望んで来る人」にキレイゴトを見せるのではなくありのままの実態を見せること。得に学生、生徒であれば「この家のコドモとして扱わせてもらう」というようにするととてもすんなりお互いのもままでいられます。だから私は農忙期に限らず冬期もあればしたいくらいです。忙しい時期も他人との触れあいは農家にとっても救われます。
- ・生徒を受け入れると、家が明るくなる！
- ・一般消費者に農業・酪農をもっと深く理解してもらうことが大切である。また、現場の努力、安全・安心な食料を生産していることをもっと知っていただき、自然の中で生産される生産物を試食していただきたい。
- ・地元の行政、JA等町を上げての協力体制の元、受け入れすべきと考えます。食育はとても重要な事。私たち、生産者の立場として、農薬は決して致死量ではなく、農薬を使用しないという事は手間がかかり＝経費がかかる。当然それは価格に反映されるという事。そして、忘れがちな旬をしっかり伝えていきたい。生産者と消費者、この距離感が少しでも身近なものになればと考えています。
- ・受入をした家庭とその後も交流があり、私自身も受入をすることは意義あることだと思います。野菜の味をわかって感動して下さったことも農業を理解していただくきっかけ作りとなります。受入の時と農作業の多忙期と重なると思うようになりません。お年寄りが同居していると難しい面もあります。家族の理解が大事だと思います。
- ・以前フォーラムに出席した時に「修学旅行生を受け入れるのは、ちょうど進路を考える時期の子ども達なので担い手対策としても有効」という話を聞きました。都会の普段農業に触れる機会のない子ども達にたった一日だけでも十勝の農業を体験してもらうのはきっとその子達の心に何らかの形で残ってくれると思い、受入をしています。私たちも食事の準備等は大変ですが、喜んでくれている顔を見るとそんな事は忘れてしまいます。もっと十勝中に広がればいいと思います。

## ○受入のあり方について

- ・農業体験を中心にし農業者だけでなく街の人たちも含めて受入体制の確立
- ・受入時期が混み合っている
- ・農業体験等のアットホームな民泊のあり方としては現在の姿で問題ないと思いますが、産業として考えていくのであれば行政や他業種も含め一体となったシステムを考えるべき。
- ・若い世代にもっと参加してもらう取組が必要。山歩き、レクリエーションのできる場所があってもいい、冬のスキー体験など
- ・廃校になった学校を改修して人を雇ってやると地域の雇用にも役立つ
- ・ほとんどの受入農家が食事等、収支を気にしていない様子で、民宿を経営の一環としてとらえ、収入源の一つの柱となれば、もっと力を入れていけるはず。食事（晩）はジンギスカンが多く値段があがっているのが赤字です。
- ・農作業を通じての青少年教育が主たる目的なので、サイドビジネスでないことを認識して対応するこ

とが大事。自分がその立場に立って相手方に接することが重要。受入農家のチェックも公的機関で行う必要がある。

- ・新しい人が入らず、受入農家さんが減っているせい今年受入の数が少なかったのが残念でした。
- ・仲間を増やしたいと誘うがなかなか難しい。大変さより楽しさ・生きがいの方が大きいことをアピールする。受入団体、町、JA、道、一体となった取組が一層必要と思う。
- ・例えば学校跡地を整備できれば回数を増やすことができると思われます。
- ・1つの地域で1校の修学旅行生を受け入れられる体制がほしい。現在はばらばらの地域に分散し、かつ一つの地域で3～4件しか受け入れていないため、負担も大きく、受入を探す側も大変。
- ・北海道全体の農家民宿の横の繋がりがあれば良いと思います。事例の共有や地域をまたいでの連携が広がればもっと活性化されると思います。
- ・修学旅行生の受入を拡大するには地域全体の取組が必要だと思います。自分の町村でもっと受入できればよいのと思いますが、なかなか受入農家の拡大が難しいです。
- ・やはりJAの協力が不可欠ではないか。

#### ○受入に係る負担及び負担の軽減策について

- ・ファームステイを初めて10年を過ぎましたが、スタートの時点ではまだ労力的に又肉体的にも余裕がありましたが、時代とともに経営面積の拡大、そして高齢といった環境が大きく変わり、最初は素晴らしい取組と自分たちも積極的な気持ちをもっておりましたが、むずかしい時を迎えてしまいました。これからはあまり負担のかからない方法で取組をしたら良いのではないか。
- ・昨年は15回受け入れしましたが、今年は5回に減りました。高齢には勝てません。(続けたけれど、高齢のため無理です)
- ・受入農家が農作業に余裕があること。受入農家にコミュニケーション能力があるとよい。
- ・学生の送り迎えに時間がとられること
- ・農家は体験だけで宿泊はJAや役場の方も分担して受けられてはいかがでしょうか？農繁期の受入は負担が大きいです。
- ・農家民宿・民泊は受け入れていません。宿泊を別にした一日長めの体験で充分だと思います。村、JAの宿泊所を利用できたら負担が減ると思います。
- ・施設を利用して宿泊させて、食事は自家野菜で会員がつくる。農業体験は個々の場所で体験させる。(理由は食事の面で負担になっている為)
- ・受入の時間が学校によって異なるため、送迎の時間に苦慮している。朝の起床時間や入浴時間もばらばらのため、生徒への指導など対応が必要。食事のメニューについて、カレーやジンギスカンなどは学校によっては翌日のメニューと重複しないよう依頼されることがあるため、配慮する必要がある。
- ・地域の仲間で持ち寄り食材での、民泊者とパーティー形式は？当別では畑作、水田、畜産、花農家とばらばらです。どこか一カ所で持ち寄った材料でピザを作りながら町のPRをできたら・・・
- ・牛の世話が忙しくて余力がない。負担が大きい。協議会から頼まれることがあり、受入をしているが今後は続けられるかわからない。
- ・受入時の待ちの時間が長く必要で、通常の農作業の時間が削れる。



- ・1年毎に面積が増え、忙しくなって農業体験をさせてあげられなく自分も年を重ねてゆく中、負担に思うことが多くなってきた。
- ・受入時女性に負担がかかるのは大きな問題だと思います。農業体験と宿泊・食事を分けることも方法論の一つで、女性の負担を少なくするために何をしようか、子どもたちや高校生、大学生と交流するために何をしようか、一つずつ自分にできることを考えることだと思います。私は地元子ども達がいるので、みんなあいている子ども達をつれてきます。高校生も歳が近いので子ども達と話があってよこんで帰っていきます。あまりむずかしく考えず、自分たちの普段の生活を見せることだと思います。大変といえば大変で、となり近所に手伝ってといえる関係性が田舎の特長のような気がします。
- ・農業の手取りが低くなってきて作付面積も増えているので多忙な時期はものすごく辛い！

### ○行政への意見・要望

- ・空知の場合はそらち DE い〜ねが事務局としてやっていますが、もっと振興局からの交流をとれるといいと思います。我々の総会に来たり、様々な国の事業を上手に組み合わせて都市と農村の交流事業を空知は一本化して行うべきだと思います。
- ・どこまで？何をさせても大丈夫なのか？その保険体制のバックアップをさらに行政にお願いしたいです。
- ・何事も実践力が大事。道職員も業務についたら体験することが大切。そのためには土日を利用して活動すればいいし、また、そういう人に報奨金を与えるのも良い。業務から外れたら遊ぶこと。遊びで無駄な時間を過ごすことで視野が広がる。自分はサラリーマンに挑戦（23年間民間会社勤務）したおかげで民泊を始める意欲が出た。自分の趣味を持ち続けて希望を持って進むことが大事で、その希望が今に繋がっている。
- ・高齢になりつつあるので現在は民宿専業。畑作は自家消費（客への提供も含む）のみに限定。30年以上前から道ではグリーン・ツーリズムを呼びかけているが具体的取組が目に見えない。法律の整備が進んでいるようには感じない。「旅館業法」に準ずる「農家民宿法」が必要（又は特区を設ける）。客を泊める場合どうしても投資が必要だが費用対効果が得られないのが現状。故に増えないと思う。
- ・行政・法律が変わったりと手続きが大変です。
- ・民泊の理解と規制の緩和が必要となる。

### ○訪れる学校への要望

- ・修学旅行生（高校生）を主に受け入れていますが、受入先の町村についての事前学習をしていただきたい。（学校に対して）農業体験をしたくない学生に無理に体験をさせてほしくない。（本当に農村体験をしたい学生を受け入れたいと思います）学校毎に温度差がありすぎるような気がします。
- ・ファームステイ中の教師の行動
- ・修学旅行生の受入しかやっておりませんが、中には仕方なく農作業をする子がおり受入を後悔することがある。学校での事前・事後学習が大切と思う。また、その学習に出向き話し合う場も必要ではないか。
- ・修学旅行生を受け入れました。取組としては素晴らしいと思いますし受入側も様々な学ばされることがあります。たった一泊ではありますが、その間地域や近所の方々の助けもありました。そこで、でき

れば帰宅後に学校のHRの時間などを利用して礼状のような書面を宿泊先に送ること。それこそ今後、社会に出て生きる経験となると感じます。もちろん、ケータイでのやりとりもそれぞれあるでしょうが、ある意味面倒なお礼の葉書一枚、ここまでしてこそ日本の本当の教育なのでは？と感じました。

#### ○訪日外国人の受入について

- ・今行われている宿泊への法改正の内容が、実状に合っているかどうか。合う内容があれば、今後外国人向けの施設改善に結びつけたい。

#### ○アンケートについて

- ・アンケート何年続けますか？国、道、市、ともに6次産業関係のアンケート多すぎ。協力はしますが、忙しい時期は・・・。